

特 集

## 豊田市消防団学生機能別団員としての活動

長尾佳世子<sup>1</sup>

### 要旨

日本赤十字豊田看護大学災害支援サークル DMAC（以下、DMAC）は、被災地でのボランティアだけでなく、災害そのものを学び、防災・減災に務めるサークルとして活動している。一方、消防団員の減少に伴い、地域における消防団の担い手は大学生や専門学生に期待されている。DMAC メンバーの一部は、前年度に参加した豊田市消防団 1 日体験入団を機に、災害・防災・減災についての学びを深め、地域に沿った活動を行うことを目的に豊田市消防団へ入団し、活動を開始した。活動を通じて、本来の目的だけでなく、他大学生や消防団員・消防本部職員との交流を通じ、災害時に協力し合い活動するには、平時からお互いに顔の見える関係を気づいていくことの大切さや規律の必要性を学び、有事の時に地域で活動できることを目指している。

キーワード 学生機能別団員 大学生 課外活動

### I. はじめに

日本赤十字豊田看護大学災害支援サークル DMAC（以下、DMAC）は、東日本大震災後、現地に赴きボランティア活動を行ったことをきっかけに発足し、2015 年に現地ボランティアだけでなく、災害そのものを学び、防災・減災について務めるサークルとして再始動した。毎年、夏・冬の東北地方でのボランティア活動に加え、大学内のハザードマップ作製やいとすぎ祭で来場者と防災かるたを実施するなど、災害時の避難行動や防災についての知識を様々な活動を通して学び、多くの人に興味をもってもらえるよう活動を続けている。現在、200 人近いサークルメンバーは、コアメンバーを中心に大学内にとどまらず地域での行事にも参加し、活動の範囲を広げてきた。

そんな中、2016 年 11 月豊田市消防団 1 日体験入団に参加し、日ごろの自分たちの活動を紹介したところ、豊田市消防団学生機能別団員（以下、学生機能別団員）への入団の意向を打診され、その活動に非常に興味を持ち、自分たちの立場で活動できることがある

のか考えるようになった。おりしも日本赤十字社事業部救護・福祉部長及び医療推進本部看護部長より、赤十字看護大学学生に対する消防団の加入案内にかかる協力依頼があったところであった（救福防第 5 号平成 29 年 2 月 3 日）。

しかし、大学生の主体は何より学業である。学生機能別消防団員の役割をよく確認し、数回の消防本部職員からの説明を受け、勉学に支障をきたさないことをお互いに確認し、顧問を通じて、学生委員会・学長の同意を得て 2017 年 4 月、13 名が入団した。今回、入団から 11 カ月ほどが経過し、実際にどのような活動を行っているのか、参加した学生たちの投稿を元に学生機能別消防団員としての地域での役割を報告する。

### II. 消防団の機能と現状

消防団は消防本部や消防署と同様、消防組織法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関であり、地域における消防防災リーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っている（消防庁、2017）。消防団の機能の特性としては、①普遍性、②

<sup>1</sup> 日本赤十字豊田看護大学

地域密着性、③即時対応力、④多面性、⑤要員動員力、⑥広域運用性の6つに集約され、地域での消防団の果たす役割は大きい。

しかし、消防団員の活動は、日常の自分の仕事をもちながら、消火活動や地震・水害などの大規模災害時の消防活動、災害時以外には防災思想の普及活動や消防訓練・機械器具の点検など多岐にわたる。近年の団員の高齢化に伴い退団者が増加する一方で、若年者人口の減少、農村・中山間地域の人口減少などに伴い、以前から消防団の入団対象となっていた年齢層・条件から入団者を確保することが難しくなっている。このような中、より多くの方に参加してもらうために機能別団員・分団制度を設け、それぞれの能力やメリットを活かしながら、特定の消防団活動や時間の許す範囲での活動が行えるように配慮された。これをうけ、各地で大学生・専門学生を消防団員として採用しようという動きがみられ、平成28年4月1日現在で3,255人の学生団員が活躍している（図1）。

豊田市でも他の地域と同様、市内の大学生・専門学校生から入団者を募り、平成28年8月に中京大学豊田キャンパス、平成29年4月に本学、そして8月に愛知工業大学八草キャンパスの学生が入団した。

豊田市消防団学生機能別団員の活動は、図2に示すように大規模災害時、通学する大学などに設けられた避難所の運営である。これに備え、通常の活動は、消防団員としての知識及び技術の習得を目的とした規律訓練や救命講習、消防団行事への参加となっている。

その他、各大学独自で自衛消防隊や防災に対する取り組みも活動の範囲とされ、以前より、防災・減災に向けた取り組みを活動としてきたDMACのメンバーにとっては今までの活動がそのまま評価されることとなった。

消防団員は常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や現地から現場に駆け付け、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員であり、学生機能別消防団員の待遇もこれに準じている。このため、豊田市消防団では、年間の職務報酬（5000円）がある他、出動報酬がその出動種別により1回につき1000円～7000円の範囲で支給される。また、活動や訓練時の負傷等に対して公務災害補償も適用される。他にも活動期間が1年以上の者に対し、豊田市学生消防団活動認証証明書が発行され、就職活動の支援となる。

このような処遇もあるため、DMACメンバーも各自が自覚をもって必ず活動に参加できるメンバーを入団させたいという希望から、今までにDMACで複数回の活動経験があることを条件として入団希望者を募った。また、看護学生として臨床実習が始まると学生機能別団員との両立は難しくなると考え、メインメンバーは2年生とし、其々の活動時に1年生の希望者には参加・見学をしてもらうようにした。同時に有事の活動の事を考慮し、ご家族に学生各自からその活動内容を説明し書面で承諾を得た学生が豊田市消防団学生機能別団員として登録することとした。

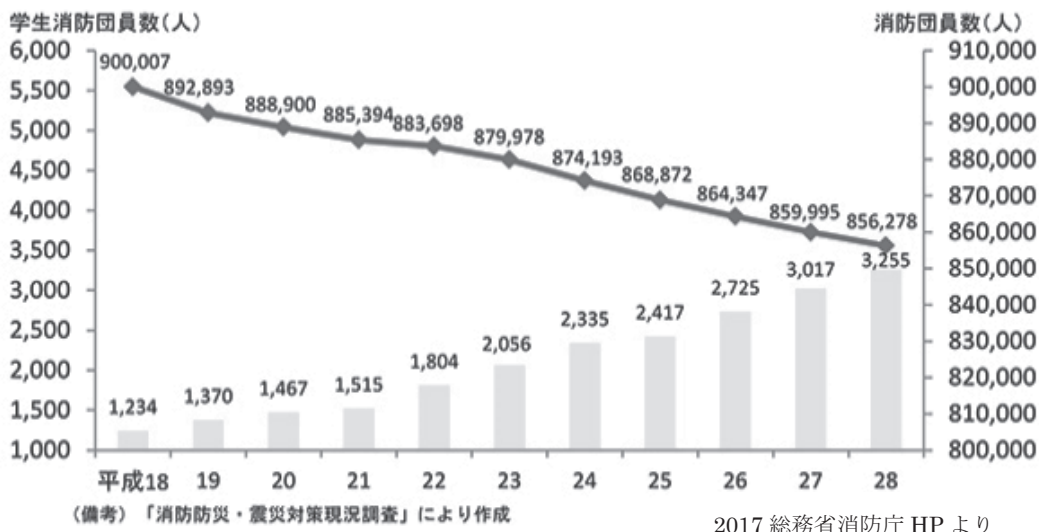


図1. 消防団員数と学生消防団員数の変移

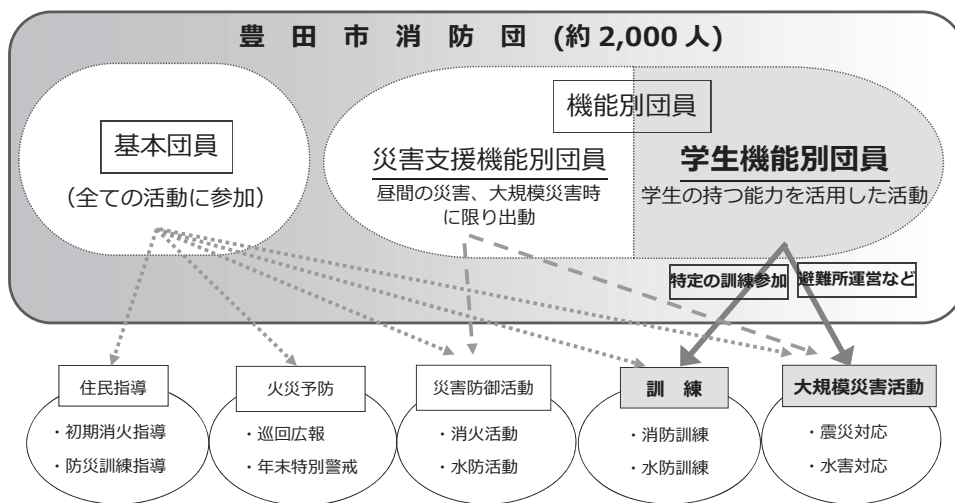


図 2. 豊田市消防団学生機能別団員の役割

表 1. 豊田市消防団学生機能別団員 年間計画 (例)

時期	訓練・研修等	消防団行事参加
4 月	規律訓練	任命式
5 月		市消防操法大会
8 月	基本訓練 (消火訓練・搬送訓練・救命講習)	
9 月	防災研修	
11 月		消防団 1 日体験入団
1 月	活動報告会	消防出初式
3 月		観閲式

【豊田市消防団学生機能別団員資料より】

### Ⅲ. 豊田市消防団学生機能別団員としての活動

豊田市消防団学生機能別団員の年間活動計画は表 1 に示すように訓練、イベントへの参加など多岐に渡っている。

今年度前半の活動に参加した学生機能別団員が、それぞれの活動についてまとめている。ここに示し活動報告とする。学生の原稿を元にし、なるべくそのままの形で掲載した。

#### 1. 任命式

2017 年 4 月 1 日 (土)、消防本部にて豊田市消防団学生機能別消防団員任命式が行われました。入団したきっかけは、昨年 11 月の消防団 1 日体験入団でした。

私たちの大学がある豊田市の安全を守る消防組織についての座学や消防団員の人の仕事内容も興味深く、体を使って体験しながら楽しく学ぶことができました。特に印象に残っていることは、規律訓練で、全体の動きはもちろん、手の角度まで合わせることは決して容易ではありませんでしたが、ぴったりと合わせる訓練が緊急時に役に立つということを身を持って感じました。

昨年の集団行動を思い出し、任命式の練習もスムーズに進みました。豊田市長、豊田市消防長、豊田市消防団長、鎌倉学長もご出席されており、身も心も引き締めて任命式に臨みました。私は号令係の仕事頂きとても緊張しましたが、それぞれ他の役割を持つ仲間も同じように緊張していました。今までのサークル活

動を共にしてきた先輩や同期と新たなスタートをきることができ、とても嬉しく清々しい気持ちでした。

学生機能別団員入団に対して期待することは、学内に留まらず地域の人や他大学の同じ志を持つ学生と繋がることができること、そして防災についてさらに知識を深めることができることです。さまざまな人と関わり、一緒に防災を学ぶことはDMACの活動としてだけでなく個人の大学生生活をより豊かにすることができますと考えます。

豊田市消防団学生機能別団員として自覚を持ち、私たちが大学やサークル活動で学んでいることの延長線上で、豊田市に貢献していきたいと思えます。そして、自分自身の防災や災害に対する知識をさらに深め、様々な企画に参加しスキルアップしていきたいと思えます。(学生：塩見歩華)



写真1. 入団辞令の交付



写真2. 鎌倉学長からの挨拶



写真3. 豊田市長・鎌倉学長はじめ関係者と記念撮影

## 2. 規律訓練

2017年4月16日(日)消防本部で行われた規律訓練に参加しました。消防活動は全体が一致団結しなければならないことがあります。もし、消防団員が地域で活動を行うとなった時に消防団員が団結していないと混乱がおきたり、情報伝達がうまく行えないなどといった、様々な問題が浮かび上がってくるのではないかと考え、規律訓練を行うことは消防活動を行う上で必要不可欠な訓練であると感じました。

学生機能別消防団員は、日本赤十字豊田看護大学をはじめ、中京大学や愛知工業大学の3つの大学が連携し、活動を行います。異なる大学が連携して行うのですが、初めて会う人ばかりで、どうコミュニケーションを取ればいいのかかわからず、初めは混乱しお互いよそよそしい雰囲気で行っていました。しかし、ここでコミュニケーションを取らなければうまく規律訓練などが行えないのではないかと考え、先輩方と一緒に他大学の人たちとコミュニケーションを取り、間違いの指摘などを互いにできるようになりました。その規律訓練を行うことで全体がまとまったようにも感じました。

また、規律訓練は細かい動作が多く含まれているため、その細かいところにまで気づくことができる思考や、その動作を全体で揃えなければならないというひとりひとりの考え方も重要になってくると感じました。指導くださった方々も一生懸命指導してくださり、自分たちも上手にならなくてとはか、どうすればきれいに揃うのだろうかなど様々な考えも生まれてきました。ひとつひとつの動作を行い、全体で揃えることはとても難しいことで、一人が間違えればやり直し、完璧にできても改善する箇所ができてくる。この規律訓練を行うことで細かいところにまで考えがおよ

び、ひとりの行動が全体の行動として見られるという、今までとは違う厳しく為になる活動が行えたと感じました。  
(学生：上平理奈)



写真 4. きびきびとした規律訓練

### 3. 豊田市消防操法大会

2017 年 5 月 28 日（日）白浜公園で行われた第 61 回豊田市消防操法大会に参加しました。私たち日本赤十字豊田看護大学の学生は、サークル活動の一環として作成した防災カルタ・学内のハザードマップ・東北ボランティアの活動まとめ・赤十字六大学合同の災害についてのワークショップのまとめをブース出展させていただきました。

今回、この豊田市消防団学生機能別団員に入団したきっかけが、学校で所属しているサークルでさらに防災についての知識を高めたい、防災を通して地域に貢献したいという思いを持っていたことから、このような消防団の行事に参加させてもらうことはとても嬉しく、私たちの活動をより多くの方に知ってもらう機会となったと感じました。

当日は、幅広い年代の方々、そして多くの親子連れが私たちのブースに足を運んでくださりました。子供達とは、特に防災カルタを通して触れ合うことができ、東北ボランティアを経験された方とは、実際の体験談を交えながらの貴重なお話をすることでお互いの考えを共有することができました。

また、同じ学生機能別団員として活動している他大学の方にも、私たちのブースに足を運んでいただき、防災についての考えを深め合い、さらに交流を深めることができたと感じました。学生機能別団員として、

有事の際に協力することができる関係であるためにも、このような機会の必要性を改めて感じ、今後お互いに協力しながら活動をしていきたいと考えます。

自分たちのブースのみでの交流ではなく、災害時の飲料について、高齢者・障害者体験、身近な日常物品を使った防災アイテム作りなど、普段の生活では、あまり交流する機会の少ない方と様々な知識・体験を通して、新たな発見や考えをもつことができたと感じました。さらに、地域の方々とのつながりという面でも、コミュニケーションを通して、顔の分かる関係になるということの重要性にも改めて考えさせられました。

このような学外のイベントに参加することで、学内のサークル活動で防災についての知識を深め、様々な経験を共有することも大事ではあるが、普段はあまり交流することが少ないような方々とコミュニケーションを通じて触れ合うことの重要性・必要性を再度、認識することができました。今後も、豊田市消防団学生機能別団員として、また災害支援サークル DMAC 活動の一環として、より地域貢献という広い視野を持って自分たちのできることを行っていきたいと強く考えます。  
(学生：瓜田琴子)



写真 5. 子供たちと防災カルタの実施



写真 6. 1 日体験に集まった豊田市消防団学生機能別団員

#### 4. 基本訓練（消火訓練・搬送訓練）

2017 年 9 月 28 日（木）本学で行われた、消火訓練と搬送訓練に参加しました。消防士の方から消火器の種類、機能などの講義を受け、これまで知らなかったことを学ぶことができました。

講義で学んだことをもとに、消火をする際に自分が立つ位置や、火元にあてるようにすることや、ほうきで掃くように消火することを意識して訓練用の消火器と的を使い、消火訓練を行いました。消火器はこれまで見たことはありましたが、使い方は詳しく知らなかったもので、この機会に知ることができてよかったです。消防士の方にこの学校は消火器があるのかと聞かれた時、私たちははっきりと答えることができませんでした。いざというときに、今回の消火訓練で学んだことを活かせるよう、学生生活の中で長い時間を過ごす学校、自宅の消火器の位置くらいは把握しておかなければいけないと思いました。また、サークルでもみんなが消火器の位置などを知ることができるように、働きかけなくてはと考えました。

私達のサークルでは、これまでもいくつかの搬送法を学んでいたのですが、搬送訓練は実践から始まりました。しかし、実際に人を運んでみると、重いのはもちろん、搬送をする人たちの中でも、息やバランスを整えるのが難しいと感じました。道が細い時の対応方法など、現場を知っている消防士の方だからこそできるアドバイスもいただくことができ、とても勉強になりました。また、普段は搬送する立場として学んでいましたが、搬送される立場になると、実際の恐怖感や、

こうしてもらえると嬉しいということがいくつも分かり、学びを深めることができました。やはり、搬送中も声掛けをすることが大切だと実感したので、これから訓練や練習であっても声掛けは重点的に行っていきたいと考えました。また、搬送する側にも体に大きな負担がかかるということもわかったので、看護の授業で学んだことを活かすとよいのではと学生の間で話し合うこともできました。

学校全体で防災や災害に対する意識を強めていくことができるといいと、今回の訓練を通して改めて実感することができました。（学生：栗山花菜）



写真 7. 消火器と的を使った消火訓練

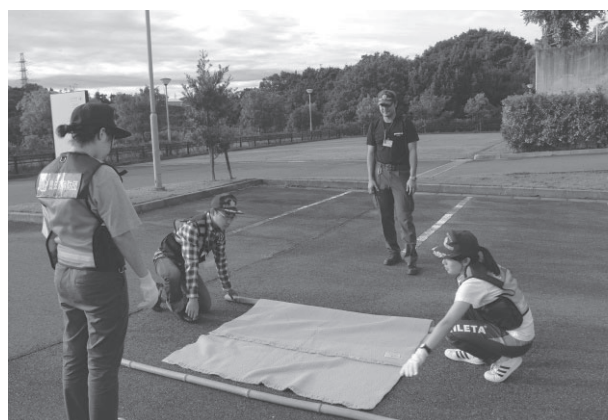


写真 8. 竹と毛布で簡易担架の作成



写真 9. 指導を受けての搬送訓練

## 5. 避難所運営研修

2017年9月28日(木)本学で消火訓練・搬送訓練を行った後、同じ豊田市消防団学生機能別団員の一員である、愛知工業大学、中京大学、日本赤十字豊田看護大学の学生たちが本学に集まり、実際に災害が起こった際も協力し合うことができるようにという目的のもと、避難所運営ゲーム(以下、HUG)を行いました。

HUGは机上シミュレーションですが、状況がとても現実的で本当に避難所を運営しているような気持ちで臨むことができます。今、南海トラフ地震は30年以内に70%の確率で起こるといわれています。実際の災害時には、子どもから高齢者まで、また障害を持った方、外国人の方など様々な人が避難してくると考えられます。普段通りの生活ができなくなったということだけでも避難者の心の状態は不安定です。その時、少しでも避難所運営がうまくいくように、日ごろからHUGを行って訓練することはとても有用だと思います。

今回は3大学合同で4つのチームに分かれて行いました。それぞれのチームで同じような意見が出たり、全く違う意見が出たりチームそれぞれの色があり、とても参考になりました。1人1人の避難者のことを考えすぎても、避難所はうまく運営できません。そこで何を一番に優先し、何を妥協しなければいけないかを判断することがとても難しかったです。また避難者は次から次へと避難してくるので素早い判断が必要だと感じました。同じグループの中でも意見が割れてしまうことがあり、どちらの意見も尊重しながら一つの答えを出すことがとても難しいと感じました。

以前から、サークル内や他の看護・医療系大学の方とHUGを行ったことはありましたが、看護・医療系大学以外の大学生と行ったのは初めてで、今までにない意見や案などが話し合いの中でたくさん出てきて、自分の中の視野が広がり、とても新鮮でした。他大学と一緒にHUGを行い、共通の防災意識を持つことがとても大切であると感じました。

今回、一緒に行くことにより、互いに防災についての意識を高めあうことができ、災害が起こったときに、私たちのような学生でも消防団の一員として活躍できるような、技術や知識を身につけることができました。(学生：太田佳那子)



写真 10. 他大学の学生との HUG の実践 1



写真 11. 他大学の学生との HUG の実践 2

## IV. 日本赤十字豊田看護大学豊田市消防団学生機能別団員の今後の活動

豊田市消防団学生機能別団員の活動はDMACの学生たちが、東北ボランティアを経験し、災害時に何が

行えるかを考え、どうしたら豊田市という地域のコミュニティを活かした活動が行えるかを探る中で自ら獲得してきた活動である。このように学生たちが豊田市という地域に自ら出ていくことで、今、何が必要とされ、自分たちにできることが何なのかを知り、地域に貢献できる学生生活を送ることができるのではないかと考える。豊田市に所在し、その中で学ぶ学生が、豊田市の活動に参加することの意義は、大学としての地域貢献にとどまらず、学生にとっても生涯における大きな糧となり得る。

また、今年度の活動の一部（任命式、避難所運営研修）は地域のケーブルテレビ「ひまわりネットワークとよたNOW」で紹介された。他にも地域の新聞に掲載され、大学としての存在を示す一役も担っている。これらの先輩の活動を見て、次年度の入団希望者も出始めている。消防団員の減少に伴う、地域防災の担い手としてこれからも豊田市消防団学生機能別団員の活動が継続できるように教職員も災害・防災・減災について意識を高めていく必要がある。実際の有事には学生とともに地域での活動を実践していきたいと考える。



写真 12. 豊田市消防団学生機能別団員としての報告

## V. おわりに

今後、地域における消防団員確保の困難に伴い、機能別消防団員の存在はますますその必要性が増すと考えられる。その中でも学生機能別消防団員はその存在価値を高めていくことが容易に予想される。当大学においても地域への貢献を考慮し、DMAC の活動の一端としてその活動を支援していくことが望まれる。また、学生の自主性による学生機能別消防団への参加が継続されることを期待したい。

今回の執筆にあたり、ご協力いただいた2年生の上平理奈さん、瓜田琴子さん、太田佳那子さん、栗山花菜さん、塩見歩華さん、また学生機能別消防団員への入団きっかけを作り、後輩に繋いでくださった3年生のDMACメンバーに心より感謝の意を表する。

## 文献

総務省消防庁 消防団に入るには 大学生の方へ.

<http://www.fdma.go.jp/syobodan/welcome/student/index.html>. 2017年12月閲覧

総務省消防庁 消防団の活動って?.

<http://www.fdma.go.jp/syobodan/about/index.html>. 2017年12月閲覧

総務省消防庁 分団指揮課程事前学習教材.

<http://open.fdma.go.jp/e-college/danin.html>. 2017年12月閲覧

豊田市 豊田市消防団学生機能別団員.

<http://www.city.toyota.aichi.jp/kurashi/shoubou/soshiki/1002444/1017139.html>. 2017年12月閲覧